

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		現状の説明	評価		発展計画	
			効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1) 研究科の理念・目的は適切に設定されているか</b>						
a	◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	①「農学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(2015年6月作成)(242頁)において、「1 理念・目的」を掲載している。 ②大学院学則別表4に「人材養成その他の教育研究上の目的」を研究科・専攻ごとに定めている。				
<b>(2) 研究科の理念・目的が、大学構成員(教職員及び学生)に周知され、社会に公表されているか</b>						
a	◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	①「農学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」は、「1 理念・目的」を含め、研究科委員会で承認しており、本研究科教職員に周知されている。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」は、明治大学ホームページに公開しており、受験生を含む、社会一般に公表している。				
<b>(3) 研究科の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</b>						
a	●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	①「教育・研究に関する年度計画書」は毎年度、「研究科執行部会議」が責任主体となって見直しを行っている。2015年度は6月18日研究科委員会で承認され、決定した。 ② 大学院学則別表4「人材養成その他の教育研究上の目的」を変更する際には、研究科委員会の審議を経て、大学院委員会、学部長会、理事会の審議承認を経て改正することとなっている。2015年度は改正していない。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 研究科として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか</b>					
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	① 求める教員像は、「農学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(242頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ② 教員組織の編制方針は、「農学研究科 2016年度教育・研究に関する年度計画書」(242頁)「3教員・教員組織」において掲載している。 ③ 「求める教員像」及び「教員組織の編制方針」を明記した「教育・研究に関する長中期計画書」を研究科委員会で承認することにより、本研究科教職員で共有している。				
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	① 基本的に、専任教員の任用・昇格は、農学部で行っている。大学院科目担当資格について、博士前期課程担当者及び博士後期課程担当者のそれぞれについて定めた「大学院農学研究科『教員任用基準』適用に関する内規」により、明文化している。また、兼任教員・特任教員・客員教員の任用については農学研究科において上記内規により資格を確認し、行っている。				
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	研究科委員会及びそれぞれの専攻会議は定期的に行われており、研究科長と、専攻主任、大学院委員から成る執行部と、各種委員会で運営されている。各専攻の科目や研究室における研究・教育は専攻主任により統括されている。農学研究科長は農学研究科委員会の議長を務め、入学試験、学位授与判定など研究科全体を統括している。これらのことから役割分担及び連携体制と責任の所在は明確である。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 研究科の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか</b>						
<b>教員の編制方針に沿った教員組織の整備</b>						
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令（大学設置基準等）によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること（設置基準第7条第3項） 【約400字】 ※現在数とは、2016年5月1日現在の数値です。 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）、専攻別に説明する。	農学研究科は4専攻（農芸化学，農学，農業経済学，生命科学）から構成され，以下のとおり基準を充足している。 <博士前期課程> 大学院設置基準上の必要教員数（ ）は研究指導教員内数 農芸化学，農学，農業経済学，生命科学 各6名 専任教員数 農芸化学専攻 18名（18名） 農学専攻 19名（19名） 農業経済学専攻 13名（13名） 生命科学専攻 18名（18名）  <博士後期課程> 大学院設置基準上の必要教員数 農芸化学，農学，農業経済学，生命科学 各8名 専任教員数 農芸化学専攻 14名（14名） 農学専攻 11名（11名） 農業経済学専攻 10名（10名） 生命科学専攻 15名（15名）					
	以下のとおり基準を充足している。 <博士前期課程> 研究指導教員における必要教授数 農芸化学，農学，農業経済学，生命科学専攻 各3名 専任教授数 農芸化学専攻 6名 農学専攻 9名 農業経済学専攻 7名 生命科学専攻 11名  <博士後期課程> 研究指導教員における必要教授数 農芸化学，農学，農業経済学，生命科学専攻 各3名 専任教授数 農芸化学専攻 6名 農学専攻 9名 農業経済学専攻 7名 生命科学専攻 11名					
b ◎『教員組織の編制方針』と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600～800字】	開講授業科目における専兼比率は85%以上であり，主要科目は全て（100%）専任教員が担当している。					
	一方，特修科目や共通総合科目においては，主として特任教員，兼任教員による多様な講義が行われている。 任期付き特任教員1名（講師）を任用しており，最新の先端機器利用方法等の講義を担当している。					

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>教員組織を検証する仕組みの整備</b>					
a ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600～800字】	① 農学研究科では、研究科長、各専攻の専攻主任、及び大学院委員から構成される「農学研究科連絡会」による検討、協議により、毎年度6月に「教育・研究に関する年度計画書」において教員・教育組織に関する長期・中期計画を策定している。「年度計画書」の策定にあたっては、自己点検・評価結果を参考としながら教員・教員組織を検証し、その編制方針の見直しを行っている。検証にあたっては、研究科の将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて、補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検証している。 ② 2015年度は、自己評価の結果、定年による退任の補充のみとしている。				
<b>(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか</b>					
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	① 大学院科目担当資格については、博士前期課程担当者及び博士後期課程担当者のそれぞれについて定めた「大学院農学研究科『教員任用基準』適用に関する内規」にしたがって、適切に手続が行われている。兼任教員・特任教員・客員教員の任用も、この内規により資格を確認し、行っている。 大学院の科目を担当するための人事は、「大学院農学研究科教員任用・科目担当審査に関する申し合わせ」に明文化されている。農学部における昇格と同様に、大学院科目担当については専攻会議での審査及び研究科委員会による一次・二次審査を経て任用の可否が決定されており、適切性・透明性を担保している。 兼任教員、特任教員、客員教員の任用についても、同様に専攻会議での審査および研究科委員会における一次・二次審査を経て任用の可否が決定されており、適切性・透明性を担保している。 ② 2015年度は、定年による退任の補充として、生命科学専攻で専任教員1名の授業担当人事、農学専攻では兼任講師1名を任用した。				
<b>(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか</b>					
<b>教員の教育研究活動等の評価の実施</b>					
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	① 教育活動業績の評価について、大学院生が学外で表彰される例が多くなっているが、それらは指導教員名とともに、学部・研究科ならびに明治大学ホームページと広報に随時掲載されている。修了時に「授業実施状況に係るアンケート調査（博士前期（修士）課程修了予定者）」が実施されている。 ② 研究活動の業績評価について、教員が学外で表彰される例や、教員の優れた研究が新聞等で報道される例も多くなっているが、それらは顕彰の意味も含めて学部・研究科ならびに明治大学ホームページに随時掲載されている。2015年度は、遺伝情報制御学研究室（担当：加藤幸雄教授）が行っている研究が、日経産業新聞で紹介され、明治大学ホームページに掲載されている。 ③ 総合的な業績評価として、農学研究科に所属する専任教員の研究活動や社会活動については、「明治大学専任教員データベース」で公表されている。教員の教育・研究上の業績、および社会活動における業績等は、農学部において昇格審査のための評価等に活用されている。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準3 教員・教員組織

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
				(中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>教員の資質向上のための研修・諸活動 (FD) の実施状況とその有効性</b>					
b ●教育研究, その他の諸活動 (※) に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 ※社会貢献, 管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動を指します。 ※『授業』の改善を意図した取組みについては, 「基準4」(3) 教育方法で評価する。 【600~800字】	○大学院教育懇談会 (大学院全体のFD研修), 本研究科執行部の教員と新任教員2名出席, テーマ: 「教育・研究上の著作権問題」「大学院生の指導 (学生相談室の視点から)」等 ○農学部との合同FD コンプライアンス教育の受講と誓約書の提出については, 2015年度の教員数88名 (専任・特任・客員・助教) のうち, 86名が受講の上で誓約書を提出し, 研究倫理教育については, 82名が受講を完了している。 明治大学研究企画本部会議主催「科学研究費助成事業の申請ノウハウ・セミナー」を理工学部FD委員会とともに農学部FD委員会として後援し, 参加を促進した。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 1. 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか</b>					
a ◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	① 教育目標として大学院学則別表4に「人材養成その他教育研究上の目的」を定めている。 ② 学位取得については、「学位授与方針」の他に博士前期・後期課程別々に「学位取得のためのガイドライン」を定めており、「学位請求の要件」「論文に求められる要件」等が明記されている。修了要件は、大学院シラバスならびに便覧に明記されている。				
<b>(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか</b>					
a ◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその内容も明記する。	学位授与方針に示した修得すべき学習成果を達成するために、教育内容や教育方法の基本的考え方を明らかにした農学研究科の「教育課程編成・実施方針」を、博士前期・後期課程別々に研究科委員会において定めている。				
<b>(3) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員及び学生等）に周知され、社会に公表されているか</b>					
a ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	① 教職員については、大学院便覧（36・37頁）・大学院シラバス（6・7頁）で公開している。 ② 学生についても、新入生に配付する大学院便覧（36・37頁）、WEBサイトに公開される大学院シラバス（6・7頁）において明示し、毎年公表されている。 ③ 社会一般への公表は、研究科ホームページにおいて教育目標・学位授与方針・教育課程の編成・実施方針を掲載している。また、受験生等を対象に配布される大学院ガイドブックあるいは『2016年度 明治大学大学院農学研究科学生募集要項』にも掲載されている。				
<b>(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか</b>					
a ●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	検証プロセスについて「農学研究科自己点検・評価委員会」での評価結果を参考に「農学研究科連絡会」において、教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について検証を行い、各専攻で確認をしながら「研究科委員会」で審議している。 2015年度も上記手続きで見直しを行った。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画																			
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述																	
<b>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</b>																							
<b>必要な授業科目の開設状況</b>																							
a ◎CPに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【300字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	<p>① 農芸化学専攻, 農学専攻, 農業経済学専攻, 生命科学専攻という4つの専攻を設置。なお, 主要科目である演習は, 論文作成のための段階的指導を行うために, I~IVの科目を段階的に履修するカリキュラムとしている。</p> <p>&lt;博士前期課程&gt;</p> <p>③ 開設科目は, 専攻ごと以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>総開設授業科目</th> <th>主要科目</th> <th>特修科目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農芸化学専攻</td> <td>41</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>農学専攻</td> <td>44</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>農業経済学専攻</td> <td>90</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>生命科学専攻</td> <td>23</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>198</td> <td>138</td> </tr> </tbody> </table> <p>また, 共通総合科目4科目を開設している。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt;</p> <p>② 現在, 農学専攻においてデュアル・ディグリープログラムについて検討している。</p> <p>③ 博士後期課程においてコースワークの科目を履修することは可能であるが, 必修ではないため, 全ての学生が履修しているわけではない。</p>	総開設授業科目	主要科目	特修科目	農芸化学専攻	41	26	農学専攻	44	15	農業経済学専攻	90	84	生命科学専攻	23	13	合計	198	138				
総開設授業科目	主要科目	特修科目																					
農芸化学専攻	41	26																					
農学専攻	44	15																					
農業経済学専攻	90	84																					
生命科学専攻	23	13																					
合計	198	138																					
b ◎コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていること。【修士・博士】 【200~400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	<p>&lt;博士前期課程&gt;</p> <p>修了に必要な単位数は30単位である。このうち, 必修科目として演習科目を16単位(農芸化学・農学・生命科学専攻)あるいは8単位(農業経済学専攻)取得することとしている。</p> <p>コースワークとしての「講義科目」及びリサーチワークとしての「演習科目」を適切に組み合わせ教育課程を構築している。</p> <p>理系3専攻: コースワーク14単位及びリサーチワーク16単位, 農業経済学専攻: コースワーク22単位及びリサーチワーク8単位</p> <p>なお, 理系3専攻は, 実験を繰り返し行うことで研究をより掘り下げる手法を身に付け, 体系的な理論化を行うために実践的演習として社会科学系 である農業化経済学専攻よりもリサーチワークを多くしている。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt;</p> <p>修了に必要な単位数は12単位である。リサーチワークを中心とする教育課程編成を行っており, 毎年次4単位の研究指導を目的とした特別演習の履修を義務づけている。一方でコースワークは, 履修を義務づけていない。適切にコースワークを設置するカリキュラムに改正するために, 農学研究科長の下に農学研究科博士後期課程カリキュラム改正ワーキンググループを設置し, 2015年度は1回開催した。教育方針の検討を開始したが, コースワーク実施案の作成には至っていない。</p>	適切にコースワークを設置するカリキュラム改正するためのワーキンググループを立ち上げた。	博士後期課程において、「特別演習」による研究指導によって修了要件単位を満たすことになっており、リサーチワークにコースワークが適切に組み合わされているとはいえない。課程制大学院制度の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供するようにコースワークを含むカリキュラムへ改定する。	ワーキンググループで検討した教育方針をもとに、コースワーク実施案、カリキュラム案の作成を行う。	コースワーク実施案を作成し、カリキュラム案を作成する。	一定単位数のコースワークを含むカリキュラムへ改定する。																	

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）</b>					
c ●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	順次的・体系的な履修への配慮については、教育課程の編成実施方針に基づき「修士学位取得のためのガイドライン」「博士学位取得のためのガイドライン」において、学位請求までのプロセスを、2年間（博士学位は3年間）の年次ごとに示している。さらに『明治大学大学院シラバス 農学研究科 2015年度』に記載された「博士前期課程修了要件・履修方法の注意事項」「博士後期課程修了要件・履修方法の注意事項」において、年次ごとの履修モデルを示している。これらに加えて、履修計画書の提出に当たり指導教員の許可印を求めることで、学生が順次的・体系的な履修を行うよう指導している。 主要科目である演習は、論文作成のための段階的指導を行うために、I～IVの科目を段階的に履修するカリキュラムとしている。				
<b>教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性</b>					
d ●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	<課程共通> ① カリキュラム全体の見直しについては、「農学研究科連絡会議」で審議・検討を随時行い、6月の年度計画書の検討時期に「農学研究科委員会」で審議・決定している。  <博士後期課程> ② 博士後期課程のカリキュラム改正ワーキンググループを立ち上げ、2018年度からコースワークを設置するための検討を開始した。 ② 博士課程取得のための研究業績を見直し改正を行った。この改正は2016年度入学者から適応される。  <論文博士> ② 論文博士の論文受理基準を見直し改正を行った。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 2. 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画	「改善を要する点」に対する発展計画	
				G列における伸張項目	(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか</b>						
<b>特色ある教育プログラムの内容とその効果 (当該学部等固有のプログラムやGP採択事業など)</b>						
a ●学部の特色、長所となるプログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	<課程共通>明治大学大学院学内GPとしての2つのプログラムを実施しており、農学研究科では以下のプログラムが採択されている。 ○「教育改革プログラム」 2015年度実績 2件 「グローバル人材アニマル・サイエンティスト育成プログラム」 「環境系デュアルディグリー(Ph. D.)プログラム」 ○「他大学大学院との研究交流プログラム」 2015年度実績 1件 海外1件(台湾) これらプログラムに参加した大学院生の成果は以下のとおりである。 2015年度実績 「グローバル人材アニマル・サイエンティスト育成プログラム」に参加の院生 国際学術誌論文 13 国内学術誌論文 2 国際学会要旨数 7 国内学会要旨数 13	学内GP「教育改革プログラム」や「他大学大学院との研究交流プログラム」による大学院生の豊富な海外経験が国際学会発表からの多数の論文投稿と受理に結び付いた。		引き続き学内GP「教育改革プログラム」や「他大学大学院との研究交流プログラム」を積極的に実施する。また、博士課程後期にサスカチュワン大学(カナダ)とのデュアルディグリープログラムを設置するための検討を進めている。		
<b>研究科間等における国際的な教育交流の内容とその効果 (学部間協定、短期海外交流など)</b>						
b ●学部の特色、長所となる国際化プログラムが編成されているか。 【200字～400字程度】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」), 専攻別に説明する。	○学部間・研究科間協定による交換留学生の受入れ 2015年度受入れ1名(博士前期課程) チュラロンコン大学(タイ) 2015年9月～2016年3月  ○学部間・研究科間協定の締結 2015年度実績(いずれも学部間による協定で大学院生の交流を含む) ・学生交流計画の実施に関する覚書の締結 タイ チュラロンコン大学理学部 台湾 国立屏東科技大学農学部及び工学部 ・国際交流協定書の締結 イタリア トリノ大学農林・食品科学部 ・協力協定書の締結 インドネシア ジャンビ大学農学部及び農業技術学部		学部間・研究科間協定の締結にもかかわらず、交換留学生の送り出しがない。英語による学術コミュニケーション能力の改善が望まれる。		英語によるポスター発表やプレゼンテーションの資料作成を支援するプログラムを構築する。英語による学術コミュニケーション能力の向上、国際学会発表数の増加が期待される。	

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(1) 教育方法及び学習方法は適切か</b>					
<b>教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性</b>					
a ◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること。 【約200字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p>&lt;博士前期課程&gt;</p> <p>① 大学院の修了要件となる学位論文の作成に向けて少人数で行われる「演習科目」においては、実験・調査、結果のとりまとめ、討論などの実践的演習が行われており、適切な教育方法を取っていると見える。これらは各自のテーマに沿って実験装置を使用した実験やフィールドでの活動を行っており、指導教員から個別の指導が行われている。</p> <p>② 「講義科目」は、各専攻ごとの専任教員が担当する主要科目と主に特任教員や兼任講師が担当する特修科目と共通総合科目がある。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt;</p> <p>「演習科目」である特別演習をそれぞれ各学期1コマ設置している。</p>				
b ●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p>&lt;博士前期課程&gt;</p> <p>教育課程の編成・実施方針に基づき、主要科目においては、専門知識の涵養を目的として専任教員による演習科目や講義科目が適切に設定されている。専攻によっては複数の教員の分担による領域横断的な総合講義も設定されている。また農学における学問・研究の高度化等に対応した特修科目や、基礎的素養を涵養するための共通総合科目も設定されている。さらに大学院の修了要件となる学位論文の作成に向けて少人数で行われる演習科目においては、実験・調査、結果のとりまとめ、討論などの実践的演習が行われており、適切な教育方法を取っていると見える。これらは各自のテーマに沿って実験装置を使用した実験やフィールドでの活動を行っており、指導教員から個別の指導が行われている。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt;</p> <p>入学時の希望する研究テーマに沿って博士学位請求論文に至る成果を出すべく、マンツーマンの指導が行われており、適切な教育方法を取っていると見える。</p>				
<b>学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</b>					
c ●履修指導（ガイダンス等）や学習指導（オフィスアワーなど）の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字～400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	履修指導については、各指導教員による研究指導のみならず、専攻において論文中間報告会等が開催されており、学位論文の作成に向けた研究指導が適切になされている。毎年、新入生のガイダンス時に在生に対して履修指導を行い、履修関連情報の周知を図っている。指導教員の指導のもと履修計画書を作成するスケジュール、方法等については、大学院シラバスに示している。研究指導の結果、2015年度留籍者は博士前期課程では2名、博士後期課程では5名であった。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(修士・博士課程) 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導</b>						
d ◎研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること(修士・博士)。 【400字】 ※課程別(「博士前期課程」「博士後期課程」)に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p>&lt;博士前期課程&gt; 研究指導計画に基づく研究指導については、4月の履修登録にあたり各自の研究計画に基づいた履修計画書の提出を行う。この履修計画書を提出する際、指導教員と相談することで、論文を完成するための研究計画に基づいた履修と、学生が無理のない履修を行うよう指導している。また毎年、新入生のガイダンス時に、新入生及び在学生に対する学習指導・履修指導を行っている。学位請求論文の作成にあたっては、「修士学位取得のためのガイドライン」が明示されており、これをふまえて指導教員の責任のもと研究指導を行い、論文作成指導を行っている。一方、大学院学生の就職活動期間が長期化する傾向にあり、研究指導計画に影響をおよぼすことも懸念される。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt; 研究指導計画に基づく研究指導については、4月の履修登録にあたり各自の研究計画に基づいた履修計画書の提出を行う。この履修計画書を提出する際、指導教員と相談することで、論文を完成するための研究計画を行うよう指導している。また毎年、新入生ガイダンスの時に、新入生及び在学生に対する学習指導・履修指導を行っている。学位請求論文の作成にあたっては、「博士学位取得のためのガイドライン」が明示されており、これをふまえて指導教員の責任のもと研究指導を行い、論文作成指導を行っている。</p>		就職活動期間が長期化した場合、計画どおりに研究指導を行うことが困難となる。		農学研究科独自のキャリアガイダンスの実施等、大学院生のキャリア支援を引き続き強化する。	
<b>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</b>						
a ◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】	① シラバスの記載内容は、全研究科統一の様式により、授業の概要・到達目標、授業内容、履修上の注意・準備学習の内容、成績評価の方法等を明示している。 ② シラバスは、冊子配付しておらずOh-MeijiシステムならびにWEBサイトにて公開している。					
c ●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】	シラバスは「教務部委員会」において全学の方針が示され、それを受けて農学研究科が編集の責任主体となり、研究科委員会を通じて各教員に統一書式での執筆を依頼している。シラバスには「準備学習」の内容が記載されており、授業時間外における学生の主体的な学習が可能な内容となっている。シラバスの内容(授業の概要・到達目標、授業の内容、成績評価方法等)については各専攻において検証が行われている。記載項目と内容の整合性などの確認は、農学部事務室職員によって行われている。					

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 3. 教育方法

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述
<b>(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか</b>					
a ◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約200字】	① 成績評価については2007年度入学者からGPA制度を導入し、統一基準での成績評価を行っている。成績評価の方法については便覧に明記している。 ② 論文審査については、課程別に次のとおりである。  <博士前期課程> 学位請求論文審査については「修士学位取得のためのガイドライン」に則り、主査のほか副査2名以上で厳格に審査を行い、審査結果は研究科委員会での審議を経て、学位授与を決定している。  <博士後期課程> 学位請求論文審査については「博士学位取得のためのガイドライン」および「学位請求論文(課程博士)の取扱いに関する内規」に則り、主査のほか副査2名以上で厳格に審査を行い、審査結果は研究科委員会にて審議し、大学院委員会での審議を経て、学位授与を決定している。				
<b>(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善(授業に関わるFD活動)に結びつけているか</b>					
a ◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約400字】	○課程修了者の一部を対象に、匿名性を担保し、各専攻の授業実施状況や、学位論文作成・研究指導の満足度等についてアンケートを試行した。修了生の提出した修了生の約9割は「大いに思う・思う」の回答であった。修了生75名中提出者は75名であり、100%であった。		研究室や共通実験室のスペースの不足が教育・研究推進の妨げになっている。また、汎用機器の設置場所が不足し、有効利用の妨げになっている。		生田キャンパス教育研究設備委員会にて検討し、2017年度の重点項目として、第一校舎1号館及び先端科学技術研究センター(仮称)の建設を掲げている。
c ●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育成果については、農学研究科自己点検・評価委員会において検証を行い、これをもとに各専攻の大学院担当専任教員で構成される専攻会議において教育内容・方法の改善を図る体制となっている。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(1)教育目標に沿った成果が上がっているか</b>						
b ●学位授与にあたって重要な科目（基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など）の実施状況。 ●学習成果の「見える化」（アンケート、ポートフォリオ等）に留意しているか。 【約400字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	農学研究科の学位請求論文は、「食料・環境・生命」に関する高度な専門知識を備え、広い視野から問題解決に当たることのできる専門性と総合性をもつ、といった教育目標に沿った質の高いものとなっている。学位請求論文の内容の一部は、専門誌に査読付きの論文として掲載されているほか、学会で発表・報告され、学外からの表彰も受けている。  <博士前期課程> 学位授与率について、2015年度の修士学位取得者数は75名（修了予定者に占める学位取得率96.2%）、修士学位授与者数は、2011年度以降は安定して定員の80名程度となっている。博士前期課程では5.3%が進学、89.3%が就職である。就職は製造業界が主であり、本研究科の教育目標に整合した人材を多く輩出している。					
●学位授与率、修業年限内卒業率の状況 ●卒業生の進路実績と教育目標（人材像）の整合性があるか。 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	<博士後期課程> 学位授与率について、課程博士学位取得者数は6名（博士後期課程3年生に占める学位取得率54.5%）である。課程博士学位の授与者数ならびに学位取得率は、年度ごとにばらつきがあるが、2014年度と同水準であった。					
c ●学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）を実施しているか。 【約400字～600字】	学生の自己評価については、博士前期課程・博士後期課程ともに研究室における指導教員や専攻教員との密な交流の中で、学習成果を評価し確認している。また、修了時にアンケートを行い、「受講した授業は、総合的に見て満足できましたか」「論文作成・研究指導について、総合的に満足できましたか」などの質問への回答から学生の評価を把握している。約9割は「大いにそう思う・そう思う」の回答であった。修了生75名中提出率は100%であった。					
<b>(2)学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか</b>						
a ◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎（研究科）学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるかを審査する基準（学位論文審査基準）を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】	<博士前期課程> 「修士学位取得のためのガイドライン」をシラバスに明記し、研究科ホームページに掲載することで、大学院学生に周知しており、透明性・客観性は保たれている。  <博士後期課程> 「学位請求論文（課程博士）の取扱いに関する内規」により博士学位請求論文審査基準及び審査手続きを定めている。博士学位請求論文が受理されるためには、「学会誌水準の論文2編以上（うち学位論文に関連するもの1編以上）を公表していること」が必須である。学位審査の基準は「博士学位取得のためのガイドライン」をシラバスに明記し研究科ホームページにも掲載することで、大学院学生に周知しており、透明性・客観性は保たれている。					

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準4 教育内容・方法・成果 4. 成果

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述
b ●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。なお、設置している専攻やコースによって違いがある場合はその特徴も明記する。	<p>&lt;博士前期課程&gt; 「修士学位取得のためのガイドライン」に則り、主査1名、副査2名以上により審査が行われ、農学研究科委員会にて審査報告がなされ、合否を決定している。学位論文審査基準は「修士学位取得のためのガイドライン」に明記される。</p> <p>&lt;博士後期課程&gt; 「学位請求論文（課程博士）の取扱いに関する内規」により博士学位論文の受理基準及び審査手続きを定めている。論文の受理は、各専攻会議にて審議され、その後農学研究科委員会で受理を決定する。論文審査は内規に明記された基準に則して、主査1名、副査2名以上により審査が行われ、農学研究科委員会にて審査報告がなされ、投票により合否を決定している。合否の決定方法も上記内規に明記される。 学位授与については、審査基準及び審査手続きに関する内規が明文化されており、適切な審査のもと授与がなされている。</p>					

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画																																									
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述																																							
<b>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか(「AP」の全文記述は不要です)</b>																																													
<b>「求める学生像」と「当該課程に入学するにあたり、習得しておくべき知識等の内容・水準」の明示</b>																																													
a ◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、WEBサイト等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。 【約400字】	① 農学研究科では「求める学生像」と「修得しておくべき知識等の内容・水準」を明示した入学者受入方針（アドミッションポリシー）を博士前期・後期課程のそれぞれで定めている。 ② 研究科ホームページ、大学院便覧、大学院シラバス、大学院ガイドブック及び大学院学生募集要項に掲載し、社会に幅広く公表することにより、受験生を含む社会に幅広く公表している。																																												
<b>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか</b>																																													
a ●学生の受け入れ方針と入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。（公正かつ適切に入学者選抜を行っているか）。 【約800字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	<博士前期課程> 「学内選考入試」「一般入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」「外国人留学生入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」「社会人特別入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」に加えて、農芸化学専攻、農学専攻、生命科学専攻は「飛び入学試験」も実施している。  <博士後期課程> 「学内選考入試」「一般入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」「留学生入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」「社会人特別入試（Ⅰ期・Ⅱ期）」を実施している。																																												
<b>(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</b>																																													
<b>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</b>																																													
a ◎部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である。（修士・博士・専門職学位課程） 【約200字】 ※課程別（「博士前期課程」「博士後期課程」）に説明する。	※ 2016年5月1日現在の数値 <博士前期課程> 収容定員160名 在籍学生数は169名 収容定員に対する在籍学生数比率 1.07 また、専攻別にみると以下とおりであり、農業経済学専攻が未充足である。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>専攻名</th> <th>収容定員（名）</th> <th>在籍学生数（名）</th> <th>比率（倍）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農芸化学専攻</td> <td>52</td> <td>59</td> <td>1.13</td> </tr> <tr> <td>農学専攻</td> <td>40</td> <td>53</td> <td>1.33</td> </tr> <tr> <td>農業経済学専攻</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>0.25</td> </tr> <tr> <td>生命科学専攻</td> <td>52</td> <td>53</td> <td>1.02</td> </tr> </tbody> </table> <博士後期課程> 収容定員24名 在籍学生数は24名 収容定員に対する在籍学生数比率 1.00 専攻別にみるととおりである。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>専攻名</th> <th>収容定員（名）</th> <th>在籍学生数（名）</th> <th>比率（倍）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農芸化学専攻</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>農学専攻</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>1.17</td> </tr> <tr> <td>農業経済学専攻</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>0.83</td> </tr> <tr> <td>生命科学専攻</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>1.17</td> </tr> </tbody> </table>	専攻名	収容定員（名）	在籍学生数（名）	比率（倍）	農芸化学専攻	52	59	1.13	農学専攻	40	53	1.33	農業経済学専攻	16	4	0.25	生命科学専攻	52	53	1.02	専攻名	収容定員（名）	在籍学生数（名）	比率（倍）	農芸化学専攻	6	5	0.83	農学専攻	6	7	1.17	農業経済学専攻	6	5	0.83	生命科学専攻	6	7	1.17	専攻主催の研究会、博士前期課程学生による自主的な研究会により、学部学生にも進学後のイメージ、メリットが伝わりつつある。	大学院進学に際しての経済的負担を懸念する学部学生が少なからずいることから、奨学金制度、助手制度などに関する情報提供を適切に行う。	引き続き、専攻主催の研究会等で進学についての情報提供を行う。	大学院進学のメリット、研究成果の社会還元等について、研究科の進学ガイダンスのみならず、各研究室および学科独自に学部生への広報、伝達を引き続き、きめ細やかに行う。
専攻名	収容定員（名）	在籍学生数（名）	比率（倍）																																										
農芸化学専攻	52	59	1.13																																										
農学専攻	40	53	1.33																																										
農業経済学専攻	16	4	0.25																																										
生命科学専攻	52	53	1.02																																										
専攻名	収容定員（名）	在籍学生数（名）	比率（倍）																																										
農芸化学専攻	6	5	0.83																																										
農学専攻	6	7	1.17																																										
農業経済学専攻	6	5	0.83																																										
生命科学専攻	6	7	1.17																																										

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準5 学生の受け入れ

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応</b>					
b ◎現状と対応状況 【約200字】	農業経済学専攻の博士前期課程は、収容定員に対する在籍学生数が0.5未満となっている。 専攻主催の研究会、博士前期課程学生による自主的な研究会を開催し、学部学生に進学後のイメージが伝わるようにしている。				
<b>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</b>					
a ●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【400字】	入学者の受入れ方針については各専攻会議において毎年検討しており、必要があれば改訂を行うことになっている。専攻会議での検討結果を基に農学研究科委員会において方針の改訂について審議している。2011年度に社会人入学試験の回数を増やす改訂、2012年度に続き2013年度にも入学者の受入れ方針の一部改訂を行った。 また、I期入試及びII期入試を実施することにより、農学研究科連絡会（執行部会議）において、入学者選抜が公正かつ適切に実施されたかどうかの検証を毎年2月に行っている。2014年度入学試験より農芸化学専攻においてプレゼンテーションを実施することを決定した。2016年度入学試験は、2015年度の検討の結果変更なしとしている。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

<b>点検・評価項目</b> <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。                      ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	<b>現状の説明</b>  〇列の点検・評価項目について、必ず記述してください	<b>評価</b>		<b>発展計画</b>		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか</b>						
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	農学研究科では「助手・RA・TA等の増員・充実」、「学会研究活動に対する受精の拡充」、「大学院学生の就職支援」等の学生支援の方針を定め、長期・中期計画書にも明記している。これら学生支援の方針については、農学研究科連絡会議、各専攻会議において随時議論されており、教員の間で方針の共有がなされている。大学院便覧には奨学金や各種助成制度などについて明記されており、これを利用して学生への周知を図っている。					
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留年者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	農学研究科では、博士前期課程の留籍者はあまり存在しない。博士後期課程においては、3年間で博士論文の完成に至らないことによる留籍者が見られるが、指導教員を中心に論文指導に注力することで適切に修学支援を行っている。休・退学者については、「一身上の理由」による者を含め、経済的理由や心身衰弱等様々である。休退学者については、農学研究科委員会にて審議され、状況把握がなされている。精神衛生上の問題など、大学院生が抱える諸問題への対応に関しては、学生相談室と連携により解決を図っている。					
	現在は、障がいのある学生はいないが、該当者がいた場合、全学的な制度で対応を行い、農学研究科としてサポートが必要になれば、適宜検討する。					
	農学研究科として、サポートの取組は行っていないが、大学院全体で論文校閲等の支援を行っている。					
	農学研究科院生は、各研究室での滞在時間が多く、指導教員との関係が親密であり、院生のニーズは、指導教員が把握している。					

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準6 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  0列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述
<b>(2) 進路支援に関する方針を定め、学生への支援は適切に行われているか。</b>					
a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	進路支援の方針は、年度計画書にて、「大学院学生の修了後の進路についての不安感を払拭し、ひいては大学院進学を促進するために、大学院学生対象の就職ガイダンスのさらなる充実およびキャリアパス支援プログラムの検討を行う」としている。 農学研究科単独の取り組みとして、毎年11月に農学研究科修了者（OB・OG）による就職活動や企業活動の紹介を中心とした「農学研究科就職ガイダンス」を開催している。				
b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。 【約400字～800字】	① 研究科主催の研究科修了生による講演会を開催している。 ② 博士後期課程在籍者には助手制度による支援を行っており、実質的に研究者としてのトレーニング機能にもなっている。また、博士後期課程修了後に、助教として任用されることも少なからずあり、研究者として進むための道として利用されている。		研究科修了生による講演会は講演者の多様性に限りがあるので、紹介できるキャリアパスは多様性に欠ける傾向がある。		外部講師を中心としたプログラム実施により、多様なキャリアパスの可能性を明確にする大学院生に特化した就職支援を行う。博士後期課程への進学者増加と共に、社会人基礎力涵養といった教育効果も期待される。
	大学院全体として、「キャリアサポートプログラム」を実施し、研究者支援も行っている。				

# 2015年度 農学研究科 自己点検・評価報告書

## 基準10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明  C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
<b>(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか</b>						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること。 【約400字】	農学研究科における自己点検・評価は、研究科内に設置された「農学研究科自己点検・評価委員会」が中心となって行われている。本委員会は研究科長、大学院委員、及び4専攻主任、計6名で構成されている。2015年度は、15回開催した。2015年度は6月に開催した委員会における検討、審議の上で「2014年度農学研究科 自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書は、2015年6月18日開催の研究科委員会にて審議・承認され、その後全学の手続きを経て、明治大学ホームページで公開している。					
<b>(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか</b>						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること 【800字～1000字程度】	① 本研究科の内部質保証の基本方針は、「教育・研究に関する長中期計画書」(249頁)「10 内部質保証」において掲載している。 ② 自己点検・評価の結果は、農学研究科連絡会において、農学研究科全体及び各専攻の現状と課題等について定期的に協議することで、問題意識の共有と効果的な改善計画の作成に努め、PDCAサイクルを回している。					
●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること	④ 2014年度認証評価時の指摘事項は、第3期「改善アクションプラン」で遂行している。具体的には、博士後期課程において、現行のカリキュラムだと「特別演習」による研究指導12単位で修了要件を満たすことになり、リサーチワークとコースワークが適切に組み合わされていない。そのため、2018年度からコースワークを含むカリキュラムへ改訂する計画としている。2015年度は、ワーキンググループを立上げ、教育方針の検討を開始した。					
●学外者の意見を取り入れていること	学外者の意見は取り入っていない。					